

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 しるし		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 17日 ~ 令和7年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 17日 ~ 令和7年 1月 17日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 3日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ライフステージに合わせ、身体面・学習面・社会性の面から細かいアセスメントを行い個別支援計画を立てている	多面的に利用者さんのアセスメントができるように、定期的に内部研修・外部研修を行い理解を深めている。	スタッフ全員が統一した意識を持てるように、随時支援の見直しを行う。また、様々な研修への参加を行い知識技術の向上を図っていく
2	自然体験や戸外の活動から社会性を育んでいる。また、自宅ではなかなかできない体験・活動を取り入れている。	利用者さんの状態を見ながら、最適な場所を選んでいる。また、いつも同じ場所ではなく様々な場所へ行きあえて外部と交流し社会性を育めるようにしている。	他企業との連携を促進し、外部の方からの協力を得ながら活動や社会体験の場を増やしていく。
3	室内の環境を広く取り、運動発達より言語や社会性の促しを図れるよう環境設定を図り、日々訓練のような環境を用意している	ボルタリングや前庭感覚を育むブランコや室内でのサークットなど運動面を重視した環境での支援を行っている。また、天気の良い日は外出し外の環境にてサークットなどを行い5感を意識した支援に取り組んでいる。昼寝などについてはライトの光による調整などで午睡の促しなどを行っている。	支援のプログラムについては定期的に評価し、プログラムの見直しを行っていく。また、日々研修などの中から学びを行い支援に反映させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者へのお便り等のお知らせが少なく、内容が伝わっていないことによる満足の低さが考えられる	現在おたよりについて、不定期での通知としており、年に3～4回としている。またそのことにより保護者さんの満足度や認知に繋がっていないことが考えられる。 また、ペーパーレスの観点からデータでのお渡しをしているが、開かず終わっていることや、日々の記録に流れている可能性が考えられる。	現在不定期でのお知らせとなっているため、定期的にお便り等がだせるように委員会や期限を決めおたよりを出す。また、データでお渡しすることにより見落としや認知ができていないことも考えられる為紙ベースで提示することを検討する。全体を通して、活動やイベント内容を随時周知できるようにしていく
2	避難訓練等定期的に行っているが、保護者さんへの報告や連絡ができていない	保護者さんへの連絡が日々の連絡と一緒に改めて報告することができないため認知されていない。また、マニュアル等が保護者さんへ伝わっていないことが考えられる。	事業所の見える位置に置くまたは掲載の場所を作る等お迎えの待ち時間などにも目に付くように検討する。
3	保護者さんへの活動や兄弟児支援などについて、回数やお知らせのリプライなどが弱いことで、行事の周知や理解が不足している可能性がある	保護者含めた行事やペアレントプログラムなどを定期で行っているが、参加できる機会やタイミング、事前のお知らせのタイミングなどが適ではないことにより周知や参加できにくい環境に至っているかもしれない。	行事内容や目的を明確にし、取り組みの周知を図っていく。また、来年度回数を増やし参加しやすい環境を設定していく